

番号	9	事業名	街路事業	市町村名	千曲市	路河川名	(都)旧国道線	箇所名(ふりがな)	神社前(じんじやまえ)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○旧国道線は、古くは北国街道であったことから、沿道は矢代宿として栄え、現在では屋代商店街となっており、賑わいのある市街地とするために、都市基盤の充実が求められていた。</p> <p>○当路線の付近には、屋代小学校があるが、歩道未整備の狭隘道路であり、歩行者空間の確保が求められていた。</p> <p>○平成13年度から、先行して屋代工区(H13～H22)の街路整備を実施。</p> <p>○平成16年度には、都市計画区域マスタープランにおいて、事業地付近は、中心商業地域に位置づけられ、都市基盤の充実や商業・業務施設の計画的な立地誘導により都市機能の集積を図る事を策定した。</p> <p>○平成20年度に、旧国道線の残区間となっていた当該区間を事業化した。</p>					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価			
						②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	街路樹の植樹により、都市緑化が図られ、沿道環境を整備することができた。歩道の整備・道路の拡幅に伴い、円滑な交通が確保され、自動車の排ガスによる影響が減少しているとの意見がある。	A			
事業目的	<p>旧国道線は、旧更埴市の中心部に位置し、しなの鉄道屋代駅から県道屋代停車場線を經由して、長野自動車道更埴ICおよびあんずの里へ至る重要な路線である。</p> <p>また、当路線は、沿線に商店街や小学校、高等学校等の公共施設が立地しており、更埴地区の主要な道路である。事業区間は、幅員が狭小で歩道が未整備であり、安全な歩行者空間の確保が求められていた。さらには、隣接する商店街の活性化も求められていた。</p> <p>このため、道路拡幅工事および歩道設置を行い、健全な都市環境の確保および商店街の活性化に資するものである。</p>					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価			
						③施設の維持管理状況	植樹および道路の維持管理については、道路パトロール等で適宜実施している。	B			
事業概要	当初工期	H20～H25	費用対効果(当初時)	1.2	事業費(千円)	財源内訳(千円)					
	最終工期	H20～H25	費用対効果(評価時)	1.5	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源		
	当初計画内容(主な工種)	拡幅改良工L=241m 幅員W=6.0(18.0)m			1,500,000	825,000	150,000	472,500	52,500		
	最終事業実績(主な工種)	拡幅改良工L=241m 幅員W=6.0(18.0)m			1,176,353	646,994	117,635	370,551	41,172		
④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)					評価	車両・歩行者、両方が安全・安心に利用出来る環境となった。沿道商店へスムーズにアクセスできるようになった。しかし、一方、車道および歩道の拡幅に伴い、自動車および自転車のスピードが速くなり、危険を感じる時があるという意見もある。			A	
事業期間の延長、短縮理由と分析						⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)	評価	安全な歩道ができたため、散歩やジョギングをする人が見受けられることから、健康的に暮らせる住環境の整備が行えた。		B
						⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	安全な歩道ができたため、散歩やジョギングをする人が見受けられることから、健康的に暮らせる住環境の整備が行えた。	B			
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	用地および補償物件の詳細な調査により、補償額が減となった。					改善措置の必要性					
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					評価					
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○交通の利便性(アクセス向上、交通円滑化)</p> <p>・道路の拡幅により、しなの鉄道屋代駅へのアクセス性が向上した。</p>					B				
		<p>○交通の安全性向上(歩行者等の安全確保、災害に強い道路の確保)</p> <p>歩道と車道の分離により、安全な歩行者空間が確保された。</p>					<p>今後の取り組み及び同種事業への活用と課題</p> <p>今後、市街地の街路整備においては、可能な限り無電柱化を図り、景観や防災機能の向上を図る必要がある。</p> <p>沿道に連立する建物を補償する街路事業では、用地補償交渉に長期間を要するため、適正な工区設定を行い、早期に整備効果を発現させる必要がある。</p>				
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>街路樹の植樹、歩道の美装化により、沿道景観が向上し、歩行者にとって歩きやすい道路となった。</p> <p>お祭り等の地区の行事の際は、改良された道路を使用し、歩行者天国にするなど、広いスペースを有効に使うことができた。</p> <p>【地区祭り】</p>									
					行政改革課意見	安全性の向上が図られ、事業の目的を達成している。					